事後評価報告書

1. 基本情報

（1） 実行団体名：認定 NPO 法人 キャンサーネットジャパン

（2） 実行団体事業名：がん患者の性生活（セクシュアリティ）～心と体に及ぼす性的側面のサポート～

（3） 資金分配団体名：公益財団法人 日本対がん協会

（4） 資金分配団体 事業名：がん患者支援などの事業

（5） 事業の種類：草の根活動支援事業

（6） 実施期間：2020 年 3 月～ 2023 年 3 月

（7） 事業 対象地域：全国

2. 事業概要

（1） 事業対象者

がん患者・パートナーおよびがん医療に従事する医療者

（2） 事業概要

1）中長期アウトカム

キャンサーネットジャパンが発信する情報・ツールががん患者及びパートナー・医療機関・教育機関などへ周知・活用され、さまざまなシーンでがん治療に伴う性生活へのサポートが当たり前のように行われるようになる。がんになっても一人の人間として当たり前に生きていける社会になる。

2）短期アウトカム

・ 様々なニーズに合った性に関する専門的な情報コンテンツが整備され、発信される
・ 性に関する専門相談が出来るようになる
・ 病院内での患者へ情報提供が出来るようになる
・ パートナーへ伝えづらい内容を伝える手段が増える
・ 性に関する情報が届く、広がる

3）活動の詳細

・ がん患者及びそのパートナーにアンケート調査を実施
・ アンケート結果により決定した情報提供ツールの仕様書作成
・ WEB 相談・回答の実施：質問内容を精査、専門家と確認し回答
・ パンフレット、ちらしの作成と配布、増刷
・ LINE 仕様の設計
・ 関連学会学術集会の準備

（３） 出口戦略

これまで具体的な施策のない領域であり、当該団体のみの活動を継続するのではなく、事業対象者への気づきやきっかけから意識変革をもたらし、さまざまなところで「がんと性」にも視点をおき、支援の輪が広がっていくことを期待して事業展開した。

3. 事後評価実施概要

（１） 実施概要

１）評価ポイント

実際に支援を必要とする患者・パートナーが、がんと性に関する支援がより充実していると認識しているか、困りごとの相談がしやすくなっていると受け止めているか、実施した事業の活用度合が高まっているか、実施・掲載コンテンツ・視聴回数など充分であるかを特に重要なポイントとして設定し評価を実施した。

２）調査方法

以下の短期アウトカムの評価のため、アンケート調査を実施した

- 様々なニーズに合った性に関する専門的な情報コンテンツが整備され、発信される
- 性に関する専門相談が出来るようになる
- 病院内での患者へ情報提供が出来るようになる
- パートナーへ伝えづらい内容を伝える手段が増える
- 性に関する情報が届く、広がる

① 調査方法 ： アンケート調査（主な項目は「がんやがん治療に伴なう性に関することで困っていること・不安なことを誰かに相談することはできましたか？」「がん患者の性に関すること、性生活や性機能への問題について、情報や支援は十分にあると思いますか？」「キャンサーネットジャパンのセクシュアリティ支援の利用状況を教えてください。」）

② 調査実施時期 ： 2022 年 11 月 24 日(木)～2022 年 12 月 22 日(木)

③ 調査対象者 ： CNJ のメールマガジンの配信を希望している登録者 1,612 名にメールにてアンケート調査への協力を依頼するほか、Facebook や Twitter などの SNS を通じても回答への協力を依頼した。うち、がん患者経験者 127 名、がん患者・経験者のパートナー19 名、合計 146 名から回答を得た。（メールマガジン登録者には患者・パートナー以外も含まれるほか、SNS からの回答もあるため回答率は不明）

（２） 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

[内部]	開発・経理・プロジェクト全体	木原康太	事務局長
	医療的側面・プロジェクト全体	池田明香	看護師・プロジェクトマネージャー
[外部]	事後評価	中谷美南子氏	評価コンサルタント
	アンケート	小山田隼佑氏	生物統計家

4. 事業の実績

4 - 1 インプット

（1） 人材

内部：複数名（プロジェクトマネージャー1 人、サポートスタッフ）

外部：複数名（専門家チーム：婦人科医、泌尿器科医、看護師等）

（2） 資機材（主要なもの）

PC

（3） 経費実績

① 契約当初の計画金額 （25,000,000 円）

② 実際に投入した金額 （25,030,043 円）

（4） 自己資金

① 契約当初の自己資金の計画金額 （5,000,000 円）

② 実際に投入した自己資金の金額と種類 （1,846,957 円）

4 - 2 活動とアウトプットの実績

（1） 主な活動

事業開始時に実施したニーズ調査の結果を受け、主に、情報を必要とする患者・パートナーへ向けての情報提供や支援体制を構築するために以下のような取り組みを実施した。

・ウェブサイト「もっと知ってほしいがんと生活のこと」内に「がんと性」を新設し関連する情報を提供

https://www.cancernet.jp/seikatsu/sexuality/

・各種講演会・インタビュー・対談の実施と公開

https://www.cancernet.jp/seikatsu/sexual/themes/story/

・ちょっと言いにくい「がんと性」にまつわる表現を LINE スタンプでサポート

https://store.line.me/stickershop/product/14811314/ja?from=sticker

・チャット形式の無料相談（アプリ）

https://www.cancernet.jp/seikatsu/counselingroom/

・がんやがん治療による性生活への影響について、無意識に諦めていたり、自分には権利が無いと思い込んでしまったりしている患者に対し、自分にも権利があること、安心して相談できることに気付いてもらうきっかけとするために、アニメーション動画を制作、公開

https://www.cancernet.jp/seikatsu/anime/

・医療現場での患者支援用ツールとした小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」の制作

https://www.cancernet.jp/cands

（２） アウトプットの実績アウトプットの実績

アウトプット	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	実績値
1.アンケート調査での回答(がん患者・家族)	回答数	N/A	100	2020 年度	569 名(事業開始時) 146 名(事業終了時)
2. 情報提供ツール（WEB、コンテンツ）	各分野の専門性、海外情報、体験談や取材、個人情報管理徹底、男女別等の要件	N/A	コンテンツの品質目標、体験談や Q&A の追加による内容の充実	各年度	公開記事数 49 公開動画数 12 体験談掲載 7 セミナー開催 9 交流会開催 1
3.WEB 相談実施	相談・回答件数	N/A	５件/月	各年度	個人情報を管理した上で、ニックネームで個別相談ができるアプリを構築した
4.パンフレット・チラシなど周知、広報手段	部数	N/A	4 万部	各年度	小冊子 1.5 万部印刷 フライヤー2.5 万枚印刷 啓発動画制作・公開
5.パートナーへ伝える新しい手段（LINE）	イラスト仕様	N/A	伝えやすいイラスト仕様	2020 年度	LINE スタンプ 2 種発表
6.関連学会学術集会での発表	発表	N/A	専門家や協力者と成果等発表が出来る	2022 年度	第 59 回日本癌治療学会学術集会にて口演、優秀演題に選出(2021 年) 第 5 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会にて口演予定(2023 年)

４-３外部との連携の実績

（１） 外部組織を含めた包括的な連携について

ウェブサイトへ公開する記事については各専門家へ取材等をしながら進めた。特に、LGBTQ や性教育に関する分野は教育者や当事者団体など多角的な視点から意見を求め進めた。海外の情報については、海外の医療情報を専門に翻訳し提供する団体とも対話をし、コンテンツを検討した。関連する事業を実施する際はプレスリリースをし、メディアへアピールすることで記事として掲載され、「がんと性」をテーマにした劇団とのコラボレーション企画にもつながった。

（２） 市民参加について

医療機関や企業ではなくNPOとして、これまでも患者の声を届けることを強みとしてきた。個人的でセンシティブな「がんと性」というテーマであるが、だからこそ実際の経験者の困りごとや解決のための工夫や対応策などの事例は見えにくい。本事業を進めるうえでも、丁寧な対応を重ね、配慮（匿名・アバターにして顔出しをしない等）をしつつも経験者の声をインタビューや対談、講演などさまざまな形で発信した。なお、協力いただく経験者の選出にあたっては、患者会主宰者・YouTuber（ユーチューバー）・医療従事者などとし、協力いただく経験者による波及効果も考慮した。

当事者へのインタビュー及び記事掲載　9名

当事者が登壇する講演会開催　3回 7名

当事者協力の交流会　2回 3名

当事者へのインタビュー動画撮影　1回 2名

5. アウトカムの分析

5－1. アウトカムの達成度. アウトカムの達成度

（1） 短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期	アウトカム発現状況(実績)
1. 様々なニーズに合った性に関する専門的な情報コンテンツが整備され、発信される	①多岐にわたるニーズの把握(広さ・サンプル数) ＊アンケートにより収集・発掘	N/A	アンケートN数:100	2020年度第一四半期	2021年1月8日～2月14日実施し、がん患者・経験者480名 がん患者・経験者のパートナー89名 (合計569名)の回答を得た
	②専門的な情報コンテンツがカバーする相談の範囲・項目数・質など	N/A	コンテンツ数:100以上	各年度	公開記事数49 公開動画数12 体験談掲載7 セミナー開催 9 交流会開催 1
2. 性に関する専門相談が出来るようになる	相談件数、専門的回答	N/A	相談件数:5件/月、個別のニーズに対する専門相談が出来る	相談(各年度)	登録75件、相談13件
3. 病院内での患者へ情報提供が出来るようになる	パンフレットやちらしの出荷	N/A	パンフレット数:4万部（当初)、配布先：全国約1,500カ所、医療従事者からの情報提供が増える(パンフレット出荷数)	情報発信（各年度）	啓発動画制作・公開 小冊子・フライヤーは全国の医療機関等4,000カ所へ送付。小冊子は個別の送付依頼 172 カ所へ無料送付(40冊/回)

4. パートナーへ伝えづらい内容を伝える手段が増える	LINE スタンプダウンロード数	N/A	1000 回	2021 - 2022 年度	2 パターンのスタンプを公開 サブスク適応になり正確な DL 数不明。各スタンプの使用回数も LINE の仕様変更により確認不可。
5. 性に関する情報が届く、広がる	①Cancer Channel での動画（専門家によるセミナー）再生回数	N/A	1000 回	2022 年度	公開動画数 13 本の内 12 本を Cancer Channel にて一般公開中。総再生回数は 32,986 回
	②関連学会学術集会で専門家や協力者への発信や情報収集機会	N/A	関連学会学術集会での発表	2022 年度	第 59 回日本癌治療学会学術集会にて口演、優秀演題に選出(2021 年) 第 5 回 AYA がんの医療と支援のあり方研究会学術集会にて口演予定(2023 年)

（2）アウトカム達成度についての評価

事業開始時のニーズ調査を実施、予定の 5 倍以上の回答を得ることで、具体的な事業を決定及び修正を適宜加えながら進めることができた。がんやがん治療に伴なう性に関することで困っていること・不安なことをだれにも相談できなかった割合は事業開始前には 53.77%と過半数を超えていたが、評価のためのアンケート結果からは 37.68%へと減少、相談できずにいる患者・パートナーへ支援体制としては一定数の効果があったとして評価できた（表 1)。また、がん患者の性に関すること、性生活や性機能への問題に関する情報や支援の充足度についても不十分だと感じる割合が 41.81%→34.06%へと改善、全体的に支援体制の充足度を実感できている傾向がみられた（表 2)。

CNJ の取り組みに関しては、全く知らないと回答したのは調査対象のうち 49.63%と評価基準に設けた過半数が実施した支援プログラムを知っていると回答するという結果を得た。（表 3)。

記事コンテンツは予定よりも遅れて進行したが、がん患者・パートナーといった当事者の多くが情報を得る前の段階にいるために、「自分ごと化」への啓発活動を強化していったことにも起因する。また、米国を中心とした諸外国では、日本以上に「性」に対してオープンであろう、情報も充実しているであろう、と海外情報の翻訳化を検討していたが、想定したような充実した情報はなく、コロナ禍の影響もあり充実した情報を公開することができなかった。

動画コンテンツは 12 本を公開中。再生回数は平均 2,750 回ほど。CNJ で公開中の動画のうち、2020 年以降に公開している全動画(354 本)の再生回数は 7～155,350 回、平均は 5,830 回。視聴回数は CNJ の平均よりも少なく、引き続き啓発をしていくとともに、社会の中で認知されていくことに期待したい。

啓発動画「したい？する？～がんとセックス～」は事業を実施する中で、「がんと性」の問題を自分ごと化できず、潜在的に問題を抱えている対象者が多くいるのではないかと制作。当初の予定にはない追加であったためプロボノを活用、完成したアニメーション動画は、自団体が開催するセミナーの休憩時間などに流すなど工夫をした。結果、公開した動画の中では最も視聴され、アンケート結果からも全事業を通じて 2 番目の認知度となった（表 4）。

LINE スタンプは「チューして」「ハグして」といった面と向かっては言いにくい表現を含め、闘病中にも使いやすい一般的な表現も入れて 2 パターンを公開。ウェブサイトや SNS をはじめイベント開催時にインフォメーションしたが、認知度はアンケート回答者の 5.93%にとどまり、広く活用されるまでには至らなかった（表 5）。アンケート結果からは「スタンプではなかなか解決しづらい」との意見もあり、それ以前の支援がまだ不十分であることも理由の一つではないかと推察された。

「がんと性」に関する情報の広がりの面では、医療者向けのセミナー開催時に支援用ツールとして制作した「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」の小冊子無料配布の案内をし、医療機関で活用されたり、イベントへの登壇者が SNS 投稿することで拡散したり、情報の充足度の改善とともに、広がりを見せた。

【表 1】Q がんやがん治療に伴なう性に関することで困っていること・不安なことを誰かに相談することはできましたか？　※複数回答可	2021 年 1 月実施		2022 年 12 月実施	
Answer Choices	Responses			
パートナーに相談した	26.89%	82	30.43%	42
友人・知人・患者経験者に相談した	10.82%	35	18.12%	25
主治医に相談した	4.59%	14	22.46%	31
主治医以外の医師・医療従事者に相談した	6.89%	21	11.59%	16
相談できなかった	53.77%	164	37.68%	52
その他	12.13%	37	14.49%	20
その他（具体的に）		82		19
	Answered	**305**	Answered	**138**

【表 2】Q がん患者の性に関すること、性生活や性機能への問題について、情報や支援は十分にあると思いますか？	2021 年 1 月実施		2022 年 12 月実施	
Answer Choices	Responses			
十分だと感じる	1.22%	5	1.45%	2
どちらかと言えば十分である	8.07%	33	11.59%	16
どちらかと言えば不足している	48.90%	200	52.90%	73

不十分だと感じる	41.81%	171	34.06%	47
	Answered	**409**		**138**

【表 3】Q キャンサーネットジャパン(CNJ)のセクシュアリティ支援で知っているものを教えてください。　※複数回答可	2022 年 12 月実施	
Answer Choices	Responses	
ウェブサイト「もっと知ってほしいがんと生活のこと」内の「がんと性」	31.11%	42
CNJ アプリ(チャットによる個別相談機能)	2.96%	4
LINE スタンプ	5.93%	8
小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」	17.04%	23
啓発動画「したい？する？～がんとセックス～」	11.11%	15
JCF や血液がんフォーラム AYA week イベントなどの講演	20.00%	27
どれも知らない	49.63%	67
	Answered	**135**

【表 4】Q キャンサーネットジャパンのセクシュアリティ支援の利用状況を教えてください。　※複数回答可	2022 年 12 月実施	
Answer Choices	Responses	
ウェブサイトを利用した(情報を得た)	13.33%	18
CNJ アプリを利用した(情報を得た)	2.22%	3
LINE スタンプを購入した	0.74%	1
小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」を読んだ	8.89%	12
啓発動画「したい？する？～がんとセックス～」を観た	10.37%	14
JCF や血液がんフォーラム、AYA week イベントなどの講演を視聴あるいは参加した	8.15%	11
利用はしていない	70.37%	95
	Answered	**135**

【表 5】Q キャンサーネットジャパン(CNJ)のセクシュアリティ支援で知っているものを教えてください。　※複数回答可	2022 年 12 月実施	
Answer Choices	Responses	
ウェブサイト「もっと知ってほしいがんと生活のこと」内の「がんと性」	31.11%	42
CNJ アプリ(チャットによる個別相談機能)	2.96%	4
LINE スタンプ	5.93%	8
小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」	17.04%	23

啓発動画「したい？する？～がんとセックス～」	11.11%	15
JCF や血液がんフォーラム AYA week イベントなどの講演	20.00%	27
どれも知らない	49.63%	67
	Answered	**135**

5－2．波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

事業開始前、自団体では「がんと性」をテーマに単発のイベントやコンテンツの一つとして取り上げる機会はなく、患者支援団体や医療機関等においても「がんと性」をテーマとして扱う機会はほとんど見られなかった。しかし、2021 年には国立研究開発法人国立がん研究センターが運営するがん情報サービス内に「がんやがんの治療による性生活への影響」の項が追加されたほか、徐々に「がんと性」をテーマにした講演会などが開催されるようになってきている。また、がんを公表する芸能人や著名人は以前より増加傾向だったが、がん治療に伴う性機能障害についてインタビューなどで触れるようになっている傾向があり、拡散力のある著名人の情報発信により、今後も「がんと性」に関する内容を安心して話ができる社会になっていくことを期待する。

以下、事例を挙げる。

1．がん情報サービス「がんやがんの治療による性生活への影響」
https://ganjoho.jp/public/dia_tre/sexual_health_issues/index.html

2．国立がん研究センター東病院　レディースセンター・AYA 世代、子供サポート部門（mAYAcon）主催「AYA 世代がん患者についてさらに学び深めませんか？」（全 6 回）2021/07/09(金)
https://www.ncc.go.jp/jp/ncce/info/professional_semminer/2020/mAYAcon/index.html

3．マンマチアー委員会主催「第 134 回「がんと性(セクシャリティ)…みんなどうしているのかな 」2022/01/25 (火)
https://mammacheer134.peatix.com/

4．がん情報サイト「オンコロ」【生放送】笠井信輔のこんなの聞いてもいいですか【2021】第 9 回：がんサバイバースペシャル対談 小倉 智昭×笠井 信輔（収録配信中）
https://oncolo.jp/seminar_video/mrkasai2021#9

5．ヨミドクター「[演出家・作家　宮本亞門さん] 前立腺がん」
https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20210112-OYTET50002/

5－3．事業の効率性

最も多くの経費となったアプリケーションの開発に関して、セキュリティと匿名性を担保することを重視する一方でコスト面での折り合いもつかず専用のアプリとしての開発には至らなかった。結果、利用者にとっては登録のハードルが高いものとなってしまい、利便

性も悪く、普及率が上がらなかった。後述するFSリンクとの連携の面でのメリットは見られたが、より安価に利用できるアプリもその後に出てくるようになっている昨今においては、費用対効果が高いとは言えない結果となった。また、資金調達としても期待したLINEスタンプはその利用率伸び悩み、資金調達の一部とはなり得なかった。

一方で、急遽組み込んだ啓発動画制作にあたっては、プロボノの協力を得ることで費用を劇的に落とすことができ、視聴回数も自団体の平均を上回った。各種イベントの際にも投影するツールとなり、高い費用対効果を得ることができた。

小冊子制作にあたっては、当初簡単なリーフレットの制作を予定していたため、自団体内で編集を行うことで通常の制作コストの 1/3 以下に抑え、予算内に収めた。当事者の経験談を含め情報量を充実させたことで、より活用度は高くなり、事業終了以降も長く活用されることが期待できる。

6. 成功要因・課題

本事業において特に社会課題解決に貢献したと考えられるのは、医療者を対象としたイベントの開催と医療現場での患者・パートナー支援に活用できる小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」の制作であった。患者・パートナーへの「がんと性」に関する情報提供はこれまでになく、ウェブサイトや講演会開催など充実した情報整備は事業終了後においても活かされるものとなり得た。しかし、「がんと性」の問題は潜在的なニーズであることが多く、がん医療を提供する医療従事者がその視点を持ち、気持ちに寄り添うことが、必要な対象者への支援につながると事業展開を通じて実感し確信を得た。医療従事者であっても個々が抱く繊細な「性」の問題に向き合い、患者・パートナーの気持ちに触れ、心が揺さぶられるような経験をして初めて、人間の根本にある「性」の大事さに気づく。そのようなプロセスを経ることで、よりリアルに、臨場感をもって患者に向き合うことができる。

医療者対象のセミナーでがん経験者のリアルな感情を聞く経験をしたことで、その思いを医療に生かす、という強い決意に変わり、既に制作していた患者・パートナーへの支援用ツールである小冊子「もっと知ってほしいがんと性にまつわること」がより活用されるきっかけとなった。

一方で、患者・パートナーが匿名性を担保した状態で専門家に相談できるよう開発したアプリケーションの活用は伸び悩んだ。匿名性を保つためにアプリへの登録のハードルが高かったことも要因の一つであるが、実際には、想定していた以上に潜在的な問題であること、相談アプリの存在が広く認知されていないのも大きな要因の一つであった。

なお、妊孕性温存療法を受ける患者さんに対し、2021年4月から公的助成制度が開始され、公的助成金を受けるには、日本がん・生殖医療登録システム（新JOFR）への参加が必須となり、専用のスマートフォン・アプリ（愛称「FSリンク」）へ登録されます。そのアプリ内には当該アプリがリンクされており、簡単にアクセスができるようになっている。これらの連携により、今後においても可能な限り対応を継続していく。

7. 結論

7-１事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

（１） 事業実施プロセス　　想定した水準以上にある

（２） 事業成果の達成度　　想定した水準にある

7-２事業実施の妥当性

事業実施前はほとんど取り上げられることのない「がんと性」をテーマにしたため、どれほどのアウトカムを達成し、波及していくのか、先の読めない中で開始した。特に当事者の話を聞く、話をしてもらう際には、どこまでの配慮が必要なのか、あるいは過剰なのか、悩みながら進める部分もあった。しかし、協力者からは「がんと性」に苦しんでいたことを「やっと話せる時代が来た！」と話したり、あまり自分は「性」に積極的ではないから、と消極的ながらも講演し、話をする中で抑え込んでいた感情に気づき涙を流しながら語る、という場面がみられたり。事業を通してご協力いただいた当事者からは「サバイバー当事者として話す機会をいただけたことが大変うれしく、長年の苦しみを吐き出すことができ、がんと性の問題への転換期になったと思います。」とのコメントも得られた。

一方、ウェブサイトや小冊子などを利用する立場の方からも「自分だけが悩んでいることでないことがわかり、医師に相談しやすくなった。」「小冊子を読んで、それぞれのカップルでそれぞれの方法があることを知り、ホッとしました。だから、悩みませんでした。」などの声が聞かれた。

「がんと性」について話を聞くこと、知ることのみならず、協力していただいた当事者自身にも更なる気づきや、話すことによって解消される側面があったことは想定以上の効果であり、「安心して性について語り合える社会のために」とテーマを掲げ実施してきたことは妥当であったと評価する。

8. 提言

「人それぞれではあるが子孫を残すための行為が死を前にした時に本当に必要な行為か?性ではなく、生が最優先ではないか?」

同様の意見は散見される。長年の日本における「性教育」の在り方、国民性などに起因するもので、「性」を正しく理解するのは簡単な問題ではない。しかし、「がんと性」をテーマに話す機会を得ること、聞く機会を得ること、知る機会を得ることが、がんになっても人間として根底にある「性」を大切にし、安心して「性」について語り合える社会を実現することになるのではないかと考える。

また、がん患者が最も「がんと性」の情報を得る機会のひとつは医療機関である。医療機関において「がんと性」の情報を正しく提供することが必須であるが、その視点さえ持ち合わせていないために支援につながっていない現実もある。教育の場、あるいは医療現場での継続教育の場で「がんと性」に触れ、支援につながることを期待したい。

自団体においては情報提供、FS リンクとの連携やアプリ相談を継続する。

9. 知見・教訓

「性」は、とてもプライベートでセンシティブな問題。ゆえに時間をかけ、丁寧に段階を経て事業を進めた。その時間や過程は必要不可欠であったと認識する一方で、情報提供する側が表面的で踏み込めずにいると受け取る側も、場合によっては発信者となる者も消化不良に陥る側面がある。心が揺さぶられ動く経験こそが、自らの「性」にも向き合うきっかけとなり、支援者であれば支援のきっかけにつながる、という経験をした。

また、「性」の考えは人それぞれであり、「休憩中にセックスという言葉が流れてきて不快だった」「主催者の配慮が足りない」などと批判を受ける機会も少なくなかった。

発信者・情報提供者として、さまざまなネガティブな反応にも恐れずに信念をもって遂行していくことの大切さを教訓として記す。

10. 資料（別添）

・優秀演題

がん経験者の性生活への影響とセクシュアリティ支援ニーズの実態調査

http://archive.jsco.or.jp/detail.php?sess_id=19015

・【もっと知ってほしい AYA 世代のがんとセクシュアリティのこと】

アンケート結果の報告

https://www.cancernet.jp/wp-content/uploads/2021/01/25252436b23103165a3c1d89a1af46a2.pdf

・【AYA week 2022 イベント：病気になった AYA 世代の恋愛・結婚どうする？】

アンケート結果の報告

https://www.cancernet.jp/wp-content/uploads/2022/01/a9ebe7f792a5e229fe624876150db7fb.pdf

・医療現場におけるがん患者・パートナーへのセクシュアリティ支援アンケート結果報告

https://www.cancernet.jp/wp-content/uploads/2022/09/sexuality_2022quest.pdf

・「がん経験者の性生活への影響に対するセクシュアリティ支援」アンケート結果報告

https://www.cancernet.jp/wp-content/uploads/2023/02/0e1bd465b84cec0745cd1a2e16974154.pdf

・【医療者対象ハイブリッドセミナー】もっと話そうがんと性（セクシュアリティ）のこと

アンケート結果の報告

https://www.cancernet.jp/wp-content/uploads/2023/01/b5f03200bfe2edac4ee0676872d91060.pdf

・【もっと知ってほしいがんと性にまつわること】小冊子掲載新聞記事

13-1_デーリー東北（2022 年 11 月 7 日）

13-2_山口新聞（2022 年 11 月 7 日）
13-3_山陽新聞（2022 年 11 月 12 日）
13-4_佐賀新聞（2022 年 11 月 16 日）
13-5_琉球新聞（2022 年 11 月 16 日）
13-6_沖縄タイムス（2022 年 11 月 17 日）
13-7_秋田さきがけ新聞（2022 年 11 月 21 日）
13-8_千葉日報（2022 年 11 月 21 日）
13-9_長崎新聞（2022 年 11 月 21 日）
13-10_中國新聞（2022 年 11 月 23 日）
13-11_新潟日報（2022 年 11 月 28 日）
13-12_下野新聞（2022 年 12 月 6 日）
13-13_山梨日日新聞（2023 年 1 月 16 日）